

だい きやまとし たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかい ぎろく ようやく
第3期大和市多文化共生会議 第18回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち ど
日時: 2014年10月18日(土)14:00~16:00

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかい ぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いん いしま いとうひろ こ いとうもとみ いなふく おかざき
出席: 委員(石間フロレリサ、伊藤裕子、伊藤素美、稲福スーザン、岡崎チャーメイ
ン、菊池健一、宮嶋耕治、山田静娥) / ファシリテーター 清水睦美 / 大和市
こくさい だんじよきようどうさんかく か みずお てつ や こうえきざいだんほうじんやまと し こくさい か きょうかい た
国際・男女共同参画課(水尾哲也) / 公益財団法人大和市国際化協会(田
なかひろ こ こにし えり こ いしかわかずとも いじょう めい
中弘子、小西永里子、石川和友) 以上13名

けっせき いん あらい まさのり こばやし けいしりやく
欠席: 委員(新井政則、小林ホルヘ、ファン チィ フォン)(敬称略)

やまと し そうごうぼうさいくんれん がつ にち ほうこく
1 大和市総合防災訓練(8月23日)の報告

たぶん かきょうせいかいぎ がいこくじん し えん せつち じっし
多文化共生会議として外国人支援ブースを設置し、クロスロードゲームの実施、やさし
い日本語に直す演習などを行ったことを事務局から説明した。

いん にほん しぜんたい ぼうさいくんれん たいけん
○委員(日本): 市全体の防災訓練というよりも、どのブースも体験できるようになってい
た。ごはんやパンなど非常時に食べられるものをもらった。

じむきょく こんかい じけいれつ そ くんれん なに たいけん
○事務局: 今回は時系列に沿った訓練ではなく、それぞれのブースで何かしらの体験が
できる訓練内容だった。

いん へんろく でんごん たいけん じぶん かぞく さんか
○委員(ペルー): 117の伝言ダイヤルを体験できるのもあった。自分の家族も参加した
が、当日自分で撮ったビデオを家で編集するくらい楽しんでた。

じむきょく とく にほんご とく けいたい はんのう
○事務局: 特にやさしい日本語はすごくいい取り組みだという反応があった。

いん にほん さいがい じ じょうほうていきょう じっし
○委員(日本): ジェイコムや FM やまとなどでも災害時の情報提供を実施していることが
わかり、とても役に立ちそうだった。携帯トイレなどのサンプルももらった。各テントがそ
れぞれ体験型のブースを出展していたが、自分たちも各テントを回って使えそうなも
のがないか、回ってみてもいいのではないか。

いん さいがい かん おお じょうほう し たいせつ いっぽう さいがい とき おお
○ファシリ: 災害に関して、多くの情報を知っていることは大切。一方で、災害の時に多く
の情報の中からどの情報を選びとって考えていくのかも重要。この訓練で外国人支
援ブースに来てくれた人は、災害多言語支援センターができるのだということを知って
くれたと思うので、その点はよかった。

いん にほん ざんねん さんか じしゃ おお くんれん かんけいしゃ おお いっ
○委員(日本): 残念だったのは、参加者は多いのだけれども訓練の関係者が多く、一
般の人の参加が少なかったこと。深見小近くでお祭りがあったため、地域の人々の参加
が少なかった。

いん にほん おな ひ じっし じちかい の ぼうさいくんれん ぐ たいてき
○委員(日本): 同じ日に実施した自治会(つきみ野)の防災訓練はとても具体的だっ

た。

- 委員(ペルー): 今までの総合防災訓練と今回の訓練は違っていた。
- 委員(フィリピン): 外国人が南林間や鶴間近くに多いので、できれば外国人がいきやすい地域でできるといい。
- 委員(ペルー): 毎年場所を変更していて、今回は深見小だった。
- 事務局: 市は、北、中央、南と毎年場所を変更して実施している。
- 委員(日本): 自治会と一緒にやらないと、市民はあまり参加しないのではないかな。
- ファシリ: 深見小でやるなら、せめて地域の祭りや重ならない日程がよかった。

災害時の相互応援協定について

大和市が災害時に救済資機材の援助や被災者支援についての協定を結んでいる市町村が全国に6カ所ある。

- ファシリ: 各自治体の国際交流協会のありなしがあるが、国際化協会はこれらの国際交流協会とつながりがない。その辺も今後検討していく必要があるのではないかな。
- 委員(日本): 各自治体には、大和市でいうところの国際・男女共同参画課に相当する部署はあるのか。
- 事務局: 各自治体の現状までは確認できていない。

2 報告書について

第3期の報告書についてファシリテーターから説明を行い、委員が意見を交換した。

- ファシリ: 報告書の中身については、次回つめたところを話したいと思っている。第3期の多文化共生会議は提言ではなく、報告書を提出することになっている。

この会議で行ったことを振り返ると、まず、(1)フィールドワークとして、外国人支援団体や外国人グループが災害時にどんなことができるのかなどの聞き取りを行い、また、災害多言語支援センターに関して説明し、意見をもらった。次に、(2)そうした聞き取りの上で、災害多言語支援センターの内容について検討し、さらに、(3)災害多言語支援センター設置・運営訓練を実施した。

また、(4)防災情報を具体的にどのように提供すべきか、この会議で検討してきたネットワークをさらにどうやって進めていくか、以上の4つを報告書に盛り込めるのではないかと考えている。

- 委員(日本): 報告書にまとめたことが、具体的にだれが、どのように、評価するのか知りたい。箇条書きでも構わないので、会議で話し合ってきた内容や提案を報告書の中

に盛り込んでほしい。

○委員(ペルー): 昨年の10月に「HUG」という避難所運営ゲームをやって、避難所の運営の難しさを実感したので、その点も報告書に盛り込んでほしい。

○委員(日本): 市長に提出することにこだわっているわけではないが、それでも市役所の危機管理などの部署を対象として、この会議の報告の場を設けてほしい。

○ファシリ: 提案を盛り込んだ報告書を作成し、国際化協会理事長に提出する。その後、市役所の部長クラスあるいは、危機管理課などの関係部署との懇談が開けるよう調整を頼みたい。(2月10日以降)

防災資料について

ファシリテーターから外国人市民のための防災マップ案について説明し、その内容と配布先について意見交換を行った。また、話し合った内容は提案という形で、第3期の報告書に盛り込むことを確認した。

(主な意見)

○防災マップはやさしい日本語版で作成してほしい。

○やさしい日本語のほかにローマ字を入れたら、ひらがな、カタカナが読めない人のためにもいいのではないか。

○ローマ字はベトナムの人もわかるし、カンボジア、ラオスの人も自分の名前はアルファベットで表記するので、ローマ字表記はいいのではないか。

○「正しい」「なるべく」「とにかく」などあいまいな表現は避ける。

○大和市では指定避難所となる小中学校には衛星電話を準備している。災害多言語支援センターとなる国際化協会にも衛星電話を配置するように市への働きかけも必要ではないか。また、現在の国際化協会の電話回線について、災害時にどの回線がつながるのか、確認が必要。

○持出し品リストについては、精査が必要。外国人にとってはパスポート、在留カードが重要なので、そういった身分証については必ずリストに含めるようにする。

○防災マップを配布するルートとして、(1)流す(手渡す)ところと、(2)置くところの2点を検討したい。(1)流すルートは、自治会、学校、日本語教室が考えられる。

○また、(2)置くところは、病院、不動産、教会、外国人コミュニティ、国際化協会の事業を通じて配布する、などが考えられる。他にも、スーパーの輸入食料品売り場や避難グッズ売り場などいいのではないか。

3 今後のスケジュールについて

かい 回	にちじ 日時	ないよう 内容
だい かい 第19回	がつ にち ど 11月15日(土)	ほうこくしょ あん い けんこうかん 報告書(案)と意見交換
だい かい 第20回	がつ にち ど 12月20日(土)	こくさい か きょうかい リ じ ちよう ほうこくしょていしゆつ い けんこうかん 国際化協会理事長への報告書提出と意見交換
ほうこくかい 報告会	がつ にち い こう 2月10日以降	だい き た ぶん か きょうせい かい ぎ ほうこくかい 第3期多文化共生会議の報告会

(※)11月15日(土)の会議が終わった後、同じ場所で食事会を開く。